

BLANCO

creative living tokyo.

つくらない日は、ちょっとつまらない。

01. BLANCQ(ブランク)とは

creative living tokyo.つくらない日は、ちょっとつまらない。

BLANCQは「クリエイティブな生活」をテーマにしたライフスタイルカルチャーブランドです。アートや工芸の専門家だけでなく、日常の中でちょっとしたものをつくる・書く・考えるすべての人のための場所を目指しています。

02. ブランド哲学（5つの思想）

1. 小さくつくる

大きな作品でなくていい。ノートの1ページでもいい。創造は、小さいほど日常に近い。

2. 日常の余白を大切にす

忙しい生活の中にも、ほんの少しの余白があります。その余白から、アイデアは生まれます。

3. 完成より過程

完璧である必要はありません。途中でも、未完成でも、つくること自体が面白い。

4. 創造は誰のものでもある

クリエイティブは特別な職業ではありません。書くこと・考えること・作ること、それは誰にでもある力です。

5. つくる人たちの場所

BLANCQは作品のための場所ではなく、つくる人のための場所です。

03. サービス構成

BLANCQ

— SOMEDAY — クリエイティブライフメディア

— ROOM — オンラインレッスン（動画）

— COMMU+ — つくる人たちのコミュニティ

— MARKET — プロダクト・ツール（将来）

ROOM (room.blancq.com) 動画レッスンのプラットフォーム。スクールではなく「好きなときに、好きなだけ」学べる設計。最初はイラスト系講座からスタートし、順次拡張。パスポート（買い切り）モデルで提供。

現在の講座ラインナップ（予定）：

- ノート1ページの創作
- にじみを楽しむ時間
- ボタニカルスケッチ
- カフェでスケッチする午後
- うちの子を描く日
- へんなものをつくる日
- 墨と金箔の、静かな時間（日本画／藤村先生）

04. ターゲット・ペルソナ

メインターゲット 20〜30代女性を中心に、主婦・ママ層、クリエイティブに興味があるビジネスパーソン。「上手くなりたい」より「続けたい・楽しみたい」という動機を持つ人。

ペルソナイメージ

仕事や育児で忙しいけど、何かつくるのが好き。でも「下手だから」「時間がないから」と後回しにしてきた。

BLANCQは、そんな人が「今日も少しつくれた」と感じられる場所。

BLANCQが選ばれる理由 UdemyやSchooのような「学習プラットフォーム」ではなく、共感と世界観で選ばれるブランド。コンテンツより先に、ファンとコミュニティを育てる設計が競合との最大の差。

06. スタッフへの行動指針

まず、これだけは理解してほしい

私たちは「教室」をやっているわけではありません。

従来のスクールビジネスは「スキルを教えて、卒業させる」モデルです。生徒は上手くなったら離れていく。つまり、売れば売るほど顧客がいなくなる構造です。

BLANCQはそこを目指していません。

私たちが提供するのは「居場所」

上手くなることがゴールではなく、つくり続けることがゴール。

スキルは手段であって、目的ではありません。メンバーが「ここにいたい」と思い続けることが、私たちのビジネスの本質です。

うまくなったから卒業、ではなく ここが好きだから、ずっといる。

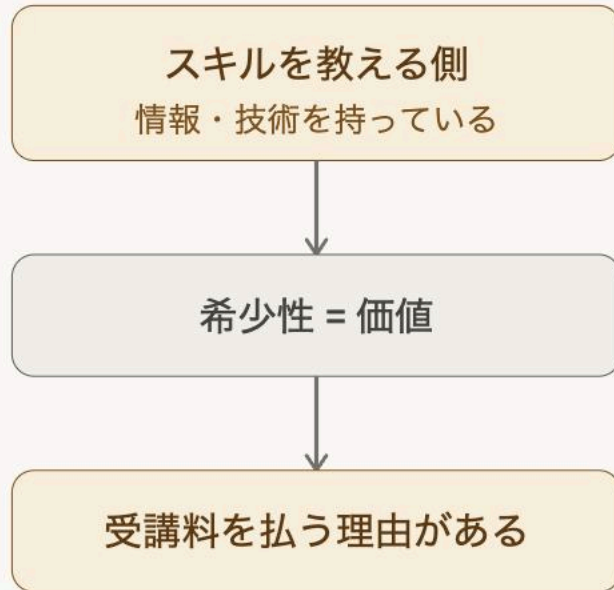
これが従来の教室モデルとの、決定的な違いです。

「共感」が起点になる

BLANCQに人が集まる理由は、スキルの質だけではありません。

「このブランドの空気が好き」「ここにいる人たちと同じ感覚を持っている」「完璧じゃなくていい、と言ってくれる場所」この共感こそが、メンバーをつなぎとめる力です。スタッフ一人ひとりが、その空気をつくる担い手だということを忘れないでください。

かつて



いま

...



スキルを売ろうとすると、価格競争に巻き込まれる
無料コンテンツと戦っても、勝てない

スキルは無料の時代

では、何にお金を払うのか？

共感
この世界観が好き

居場所
ここにいたい

つながり
仲間がいる

BLANCQが売るのは「居場所」
スキルは入口。ずっといたいと思わせることがゴール

墨と金箔の、静かな時間

講座概要

日本画は、難しくない。ただ、少し静かな時間が必要なだけ。

この講座では、岩絵具・胡粉・金箔など日本画ならではの素材に初めて触れながら、一枚の作品を仕上げるまでの全工程を体験します。上手く描くことより、素材と向き合う時間そのものを楽しむための講座です。

絵を描いたことがない人でも、ゆっくり進められます。道具の準備から、仕上げまで。藤村先生が丁寧に、静かに案内します。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、必要な道具リストの案内。何をどこで買うかも含めて紹介。
01. 日本画とはなにか： 西洋画との違い、素材の特性、千年続く絵の世界への入口。
02. 道具と出会う： 岩絵具・筆・和紙、それぞれの個性と正しい扱い方を知る。
03. 墨で線を引く： 和紙の上で、はじめての一線。墨の濃淡と筆圧の感覚をつかむ。
04. 胡粉を溶く： 白を重ねる、日本画ならではの下地づくり。胡粉の溶き方と塗り方。
05. 岩絵具で色をのせる： 粒子の粗さで変わる、独特の色の表情。混色しない色の重ね方。
06. 金箔を貼る： 特別な午後。金箔の扱い方と、貼るときの緊張と喜び。
07. 花を描く： 日本画の定番モチーフで実践。構図と余白の考え方。
08. 余白の美学： 描かないことで、絵が完成する。日本画における「間」の感覚。
09. 一枚に仕上げる： ここまでの全工程を通して、自分だけの一枚へ。
10. 日本画を日常に取り入れる： 道具の保管方法、次に描くときのヒント、続けるための小さなコツ。

にじみを楽しむ時間

講座概要

うまく塗ろうとしなくていい。にじんでいい。

水彩の一番の魅力は、コントロールできないところにあります。この講座では、水と絵の具が出会う瞬間の美しさを楽しみながら、水彩の基礎をひとつずつ丁寧に学びます。

技術より先に、感覚をつかむ。にじみ・ぼかし・グラデーションを通して、水彩ならではの表現を体験していく講座です。絵を描いたことがない人でも、筆を持ったことがある人でも、新しい発見があるはずです。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、必要な画材リストの案内。水彩絵の具・筆・紙の選び方も紹介。
01. 水彩とはなにか： 他の画材との違い、水彩ならではの特性と魅力。にじみが「失敗」ではない理由。
02. 紙を知る： 水彩紙の種類と選び方。水の含み方・乾き方の違いを体験する。
03. 水加減を覚える： 筆に含む水の量で、表情がこんなに変わる。濃い・薄い・ちょうどいいを感覚でつかむ。
04. にじみで遊ぶ： ウェット・オン・ウェットの基本。水の上に色を落とす、にじみの瞬間を楽しむ。
05. ぼかしをつくる： 色の境界をやわらかくする技法。グラデーションの基礎。
06. 色を重ねる： 乾いた上に重ねるウェット・オン・ドライ。透明感を活かした色の重なり方。
07. にじみで花を描く： にじみと重ねを使って、花のかたちを表現する実践。
08. にじみで風景を描く： 空・水・緑をにじみで表現する。遠近感の出し方。
09. 偶然をいかす： 失敗したと思った瞬間が、作品になる。偶然の表情を楽しむ考え方。
10. 自分だけのにじみスタイルを見つける： これまでの技法を振り返り、自分らしい一枚へ。続けるためのヒント。

にじみを楽しむ時間

作品イメージ



にじみを楽しむ時間

作品イメージ



ボタニカルスケッチ

講座概要

植物を描くことは、植物をよく見ること。

この講座では、水彩ペンを使って身近な植物を描く基礎を学びます。難しい技術より先に、葉っぱ一枚・花びら一枚をじっくり観察する習慣から始めます。

ボタニカルイラストは、正確さより愛情。自分が好きな植物を、自分らしく描けるようになることがゴールです。スケッチブック一冊が、小さな植物図鑑になっていく喜びを体験してください。

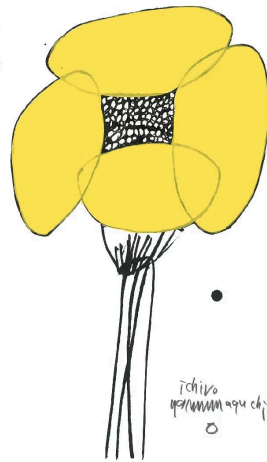
チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、必要な画材リストの案内。水彩ペン・スケッチブック・鉛筆の選び方も紹介。
01. ボタニカルスケッチとはなにか： 植物画の歴史と魅力。「正確に描く」より「よく見て描く」という考え方。
02. 線を引く練習： 鉛筆でかたちをとらえる。直線・曲線・細部の描き方の基礎。
03. 葉っぱを描く： 葉の形・葉脈・光の当たり方。一枚の葉から始めるボタニカルの基本。
04. 花を描く： 花びらの重なり・中心部の描き方。シンプルな花から練習する。
05. 水彩ペンで色をのせる： 水彩ペンの特性と使い方。にじませる・重ねる・ぼかす基本技法。
06. 明暗をつける： 光と影で立体感を出す。色の濃淡だけで植物が生き生きする。
07. 枝と茎を描く： 植物の構造を理解して描く。細部のディテールが絵を豊かにする。
08. 構図を考える： 一輪・花束・散らし配置。紙の余白を活かした美しい構図の作り方。
09. 一枚の作品に仕上げる： 好きな植物を選んで、ここまでの技法を使った実践。
10. スケッチブックを育てる： 日常の中で植物を描き続けるコツ。自分だけの植物図鑑のつくり方。

次はどの講座にしますか？

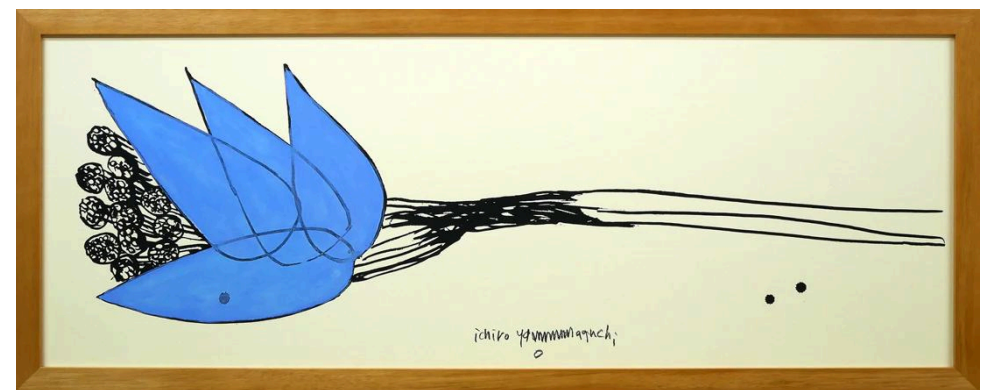
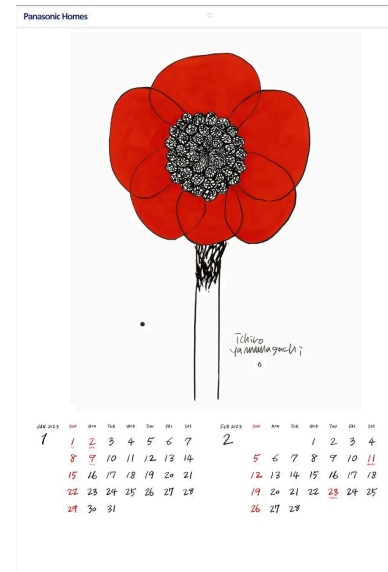
ボタニカルスケッチ

作品イメージ



Ichiro Yamaguchi exhibition flowers

2020.6.27sat - 7.12sun



カフェでスケッチする午後

講座概要

注文したものを、描いてみる。それだけでいい。

カフェで過ごす時間に、スケッチブックを一冊。コーヒー・ケーキ・サンドイッチ、目の前にあるものを水彩ペンで描く、小さな習慣の始め方を学ぶ講座です。

うまく描く必要はありません。形が少し違っても、色がはみ出しても、それがあなたのスケッチです。描き終わったあと、いつものカフェがちょっと特別な場所になります。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、カフェに持っていける道具の紹介。コンパクトな画材セットの選び方。
01. カフェスケッチとはなにか： 外で描くことの楽しさと気軽さ。完成より記録という考え方。
02. 飲みものを描く： コーヒー・ラテ・ジュース。グラスやカップのかたちのとらえ方。
03. ケーキを描く： 断面・デコレーション・質感。甘いものを美味しそうに描くコツ。
04. パンとサンドイッチを描く： 不規則なかたちの描き方。ざっくりした線がむしろ味になる。
05. 水彩ペンで色をのせる： 食べものの色の作り方。美味しそうに見える色使いの基本。
06. 影と光で美味しさを出す： 立体感と艶感の表現。少しの明暗で一気にリアルになる。
07. テーブルの上をまとめて描く： 複数のアイテムを一枚に。余白を使った構図の考え方。
08. 背景を入れてみる： カフェの雰囲気を加える。窓・テーブル・小物の簡単な描き方。
09. 一ページのカフェ日記にする： 日付・一言メモ・スケッチを組み合わせ、記録として残す。
10. 続けるための小さなルール： 毎回完璧にしない。描く習慣をカフェと一緒に育てるコツ。

カフェでスケッチする午後

作品イメージ



うちの子を描く日

講座概要

うちの子は、世界で一番かわいい。だから、描きたい。

猫・犬・インコ、一緒に暮らすその子だけが持つ表情や仕草を、水彩ペンで描き留める講座です。写真のように正確じゃなくていい。あなたが感じる「うちの子らしさ」が絵に出れば、それが正解です。

描くたびに、もっとよく見るようになる。そしてもっと好きになる。そんな時間のための講座です。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と画材の紹介。参考にする写真の撮り方のコツも。
01. ペットを描くということ： 似顔絵との違い、「らしさ」を描くという考え方。うまさより愛情。
02. 顔のかたちをとらえる： 猫・犬・鳥、それぞれの顔の構造と特徴。丸・三角・楕円で考える。
03. 目を描く： ペットの絵の命は目。種類ごとの目の形と、光の入れ方。
04. 毛並みを描く： 短毛・長毛・羽毛の描き分け。線の方法と強弱で質感を出す。
05. 水彩ペンで色をのせる： 毛色の作り方と重ね方。グレー・茶・白など難しい色の表現。
06. 全身を描く： 寝ている・座っている・丸まっている。ポーズ別のかたちのとらえ方。
07. 表情と仕草を描く： あくびをする・見上げる・じゃれる。その子だけの瞬間を切り取る。
08. 背景をシンプルに入れる： お気に入りの場所・いつものソファ。背景で「うちの子感」が増す。
09. 一枚の作品に仕上げる： 一番好きな写真を選んで、ここまでの技法で描く実践。
10. うちの子図鑑をつくる： 描き続けることで育つ、世界に一冊の記録帳のつくり方。

うちの子を描く日

作品イメージ



ノート1ページの創作

講座概要

今日あったことを、1ページに残す。それだけで、日常が少し豊かになる。

この講座では、ほぼ日手帳のように、イラストペンを使って日記や記録を1ページにまとめる方法を学びます。文字だけより、絵だけより、その両方が混ざったページが一番楽しい。

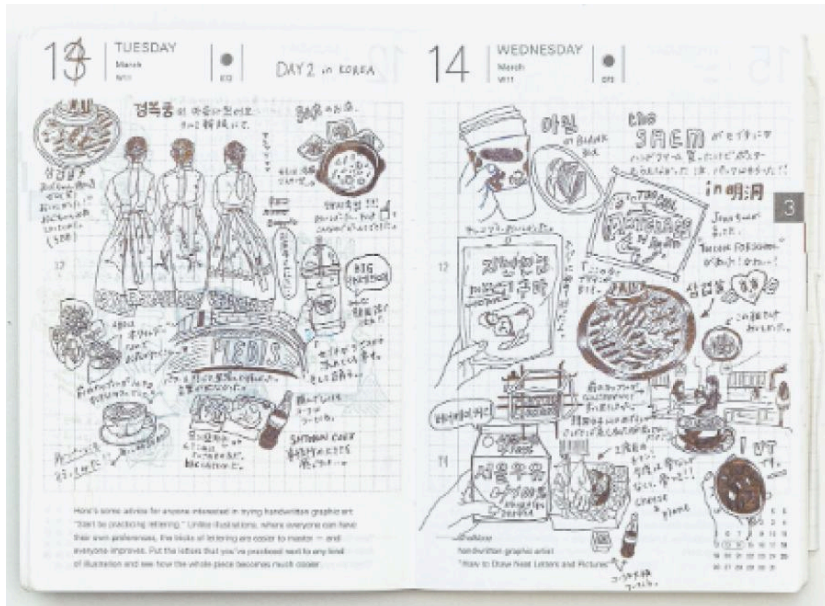
うまく描けなくていい。かわいくなくていい。自分が後から見て「あの日だ」と思えるページが、最高の作品です。続けることで、ノートが自分だけの物語になっていきます。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、おすすめのノート・イラストペンの紹介。道具選びのポイント。
01. 手帳イラストとはなにか： ほぼ日手帳に代表される、日常を記録するイラスト文化。絵日記との違いと魅力。
02. ペンの使い方を知る： 太さ・強弱・線の種類。イラストペンの基本的な扱い方と表現の幅。
03. 文字をかわいく書く： 手書き文字のコツ。ひらがな・カタカナ・数字を少し工夫するだけで変わる。
04. 小さなイラストを描く： 食べもの・植物・日用品。1ページに散りばめる小物イラストの基本。
05. 枠と仕切りをつくる： ページをおしゃれに見せる罫線・囲み・区切りのデザイン。
06. 色を加える： カラーペン・マーカー・水彩ペンの使い分け。少ない色でまとまりを出すコツ。
07. 1ページのレイアウトを考える： 文字と絵のバランス、余白の使い方。見やすくおしゃれなページの構成。
08. 今日の記録を1ページにまとめる： 日付・天気・出来事・食べたもの。日常の断片をページに落とし込む実践。
09. テーマページをつくる： 旅の記録・季節のページ・好きなものまとめ。特別な1ページの作り方。
10. 続けるための小さなルール： 毎日じゃなくていい。ノートを長く楽しむための習慣の作り方。

ノート1ページの創作

作品イメージ



へんなものをつくる日

講座概要

正解なんて、ない。へんな方が、おもしろい。

この講座は、子どもたちのための創作教室です。絵を描く・切る・貼る・作る、いろんな方法を使って「へんなもの」を自由に生み出します。

うまくなくていい。きれいじゃなくていい。「なにこれ！」って笑えるものが、一番の作品です。つくることって、こんなに楽しいんだと気づく時間にしてください。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、準備するもの。おうちにあるものでOKな道具リスト。
01. へんなものってなに？： 正解のない創作の楽しさ。アーティストたちの「へんな作品」を見てみよう。
02. へんな生き物を描く： 足が10本・目が5つ・空を飛ぶ犬。ルールを破って生き物を作ろう。
03. へんな食べものをつくる： 虹色のラーメン・空飛ぶケーキ。あったらおもしろい食べものを描く。
04. へんな乗りものを発明する： タコ足バス・雲の上を走る電車。自分だけの乗りものをデザインする。
05. 切って貼ってコラージュ： 雑誌や折り紙を切り貼りして、へんな世界をつくる。
06. スタンプとテクスチャで遊ぶ： 野菜・消しゴム・スポンジで押す。偶然生まれる形を楽しむ。
07. へんな街をつくる： 逆さまの家・空に浮かぶ道。自分だけの街を1ページに描こう。
08. 物語をつくる： 描いたへんなものたちに名前と物語をつける。絵と言葉で世界を広げる。
09. 友だちと交換しよう： お互いの「へんなもの」を見せ合う楽しさ。人と違うことが面白い理由。
10. へんなものをつくり続けよう： 創作に正解はない。毎日少しだけ、へんなことを考える習慣のつくり方。

へんなものをつくる日

作品イメージ

今日は、女の子を描こう

講座概要

好きな女の子を、描いてみたい。そう思ったことはありませんか。

この講座では、かわいい女の子のイラストを通して、人物画の基本をゼロから学びます。顔のバランス・髪を描き方・表情のつけ方・体のポーズまで、イラストペン・水彩ペン・水彩絵の具を使いながら、やさしく丁寧に案内します。アニメっぽくもなく、リアルすぎもしない。BLANCQらしい、やわらかくておしゃれな女の子を描けるようになることがゴールです。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、必要な画材リストの案内。イラストペン・水彩ペン・水彩絵の具の選び方も紹介。
01. 女の子のかたちを知る： 頭・顔・体のバランス。難しく考えず、丸と線から始める。
02. 顔のパーツを描く： 目・鼻・口・耳の基本的な描き方。小さな違いで表情が変わる。
03. 目を描く： 女の子イラストの命は目。形・まつげ・光の入れ方で表情をつくる。
04. 髪を描く： ショート・ロング・まとめ髪。髪の流れと束の描き方のコツ。
05. 表情をつける： 笑顔・ふんわり・ちょっと困り顔。線一本で変わる表情の作り方。
06. 体とポーズを描く： 立つ・座る・少し傾く。シンプルなポーズで女の子らしさを出す。
07. 服と小物を描く： ワンピース・バッグ・帽子。着こなして個性が生まれる。
08. イラストペンから水彩で色をのせる： 線画に色を加える順番と方法。透明感のある塗り方の基本。
09. 一枚の作品に仕上げる： ここまでの技法を使って、自分だけの女の子を一から描く実践。
10. 自分らしい女の子を描き続ける： 描くほどに生まれる、自分だけのスタイル。続けるためのヒント。

今日は、女の子を描こう

作品イメージ



くろぐろと、楽しむ日

講座概要

色を使わない。それだけで、こんなに自由になれる。

墨と筆だけで描くこの講座は、余計なものを全部そぎ落とした、シンプルな創作の時間です。太い線・細い線・にじみ・かすれ。黒一色の中に、無限の表情があります。

うまく描こうとしなくていい。むしろ、へんな方がおもしろい。この熊が魚をくわえているように、ちょっとユーモアのある「自分だけの黒」を見つけてください。道具は墨汁と筆だけ。それだけで始められます。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と、必要な道具の紹介。墨汁・筆・紙の選び方。難しく考えなくていい理由。
01. 墨で描くということ： 水彩や色鉛筆との違い。黒一色だからこそ生まれる力強さとユーモア。
02. 線と太さで遊ぶ： 筆の角度・力加減・スピードで変わる線の表情。まず自由に引いてみる。
03. にじみとかすれを楽しむ： 失敗じゃない、味になる。水の量で生まれる偶然の美しさ。
04. 動物を描く： 熊・猫・鳥・魚。シンプルな線で生き物のユーモアを引き出す。
05. 顔と表情を描く： 目鼻口だけで伝わる感情。少ない線で豊かな表情をつくる。
06. 食べものと日用品を描く： 身の回りのものを墨で描く。なんでもないものが、味のある絵になる。
07. 大きく、思い切って描く： 小さくまとめない。紙いっぱい描くことで生まれる気持ちよさ。
08. 文字と絵を組み合わせる： 墨で書く言葉と絵。一緒に並べるとポスターみたいになる。
09. 一枚の作品に仕上げる： 好きなモチーフを選んで、くろぐろと描く実践。
10. 黒だけの世界を続ける： 墨を日常に置いておく。気が向いたときに描ける、続け方のヒント。

くろぐろと、楽しむ日

作品イメージ



紙の上では、全員美人

講座概要

美人を描くのに、似顔絵が上手い必要はない。

この講座では、墨の大胆な線を主役に、リップや花など一箇所だけに色を入れる美人画スタイルを学びます。モノクロの潔さと、ポイントカラーの鮮やかさ。その組み合わせだけで、絵が一気に「美人」になります。

墨・水彩ペン・水彩絵の具を使いながら、誰でも美人画が描けるようになる方法を丁寧に案内します。描くたびに「なんかいい」と思える一枚が生まれる講座です。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と画材の紹介。墨・筆・水彩ペン・水彩絵の具の選び方。
01. この美人画スタイルとはなにか： モノクロ×ポイントカラーの魅力。ファッションイラストと美人画の違い。
02. 顔のバランスを知る： 美人に見える顔の比率と構図。余白を活かした顔の配置の考え方。
03. 墨で顔を描く： 目・鼻・口を墨の線だけで表現する。少ない線で色気を出すコツ。
04. 髪を墨で描く： 大胆な筆使いで髪の流れをつくる。勢いのある線が美人画の命。
05. ポイントカラーを入れる： リップ・アイシャドウ・チーク。一箇所だけ色を入れる、引き算の美学。
06. 花と装飾を描く： バラ・花びら・アクセサリ。服や小物に水彩で色をのせる方法。
07. 首・肩・デコルテを描く： 顔だけじゃない。体のラインで美人画がぐっと艶っぽくなる。
08. 背景と余白を考える： 何も描かないことが美しさになる。余白の使い方と構図の完成。
09. 一枚の作品に仕上げる： モノクロ×ポイントカラーで、自分だけの美人画を描く実践。
10. 美人画を描き続ける： 自分らしいスタイルを育てる方法。続けるほどに深まる美人画の世界。

紙の上では、全員美人

作品イメージ



あのころの、景色

講座概要

子どものころに見た風景は、なぜかずっと覚えている。

あの公園の木・川沿いの道・庭に咲いていた花。写真には残っていないけれど、心の中にはっきりある景色があります。この講座では、そんな記憶の中の風景を水彩絵の具で描く方法を学びます。

写真を見て描かなくていい。正確じゃなくていい。自分の記憶の色と形で描くから、あなただけの一枚になります。フラットな色面と水彩のやわらかさを使いながら、懐かしくて温かい風景画を一緒につくりましょう。

チャプター

00. この講座について・用意するもの： 講座の進め方と画材の紹介。水彩絵の具・筆・水彩紙の選び方。
01. 風景画とはなにか： 写実的に描くことより、記憶と感情を描くという考え方。この講座のスタイルについて。
02. 色面で描く： 細かく描かない。色の塊でかたちをとらえるフラットな水彩の基本。
03. 空と光を描く： 夏の青空・曇り空・夕方の光。空だけで風景の時間と季節が決まる。
04. 緑を描く： 木・草・葉っぱ。緑は一色じゃない。重ねて奥行きを出す方法。
05. 道と地面を描く： アスファルト・砂・土。影の色と質感で、懐かしさが生まれる。
06. 建物と構造物を描く： 塀・ベンチ・遊具。シンプルな形で、風景の中の「記憶のもの」を描く。
07. 花を風景の中に入れる： 主役じゃなくていい。風景の中に咲く花の描き方。
08. 小さな人物を入れる： シルエットだけでいい。人がいるだけで、風景に物語が生まれる。
09. 一枚の作品に仕上げる： 自分の記憶の中の景色を選んで、ここまでの技法で描く実践。
10. 描き続けることで、記憶が戻ってくる： 風景画を日常に取り入れるコツ。描くたびに増えていく、自分だけの風景集。

あなころの、景色

作品イメージ

